わくわく鹿児島中央認定こども園保育ドキュメンテーション

１月　３１日　　組担当者名（年長：ぞう組　吉野　みなみ ）観点「対話的」　記載　（池田　佳那美）

活動名「ゲーム遊びをしよう」　　園児の姿（写真等）

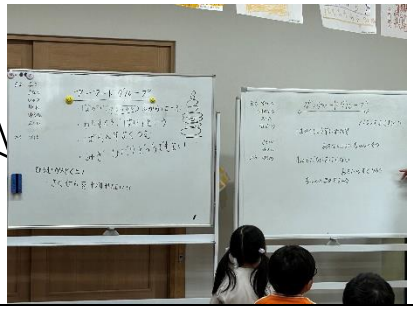
ルールを守って遊ぶ子どもたち。ルールを間違えかけても、周りがしっかり教えることができた。

どうしたら勝てるのか作戦会議で一人一人が悩み、グループの前で発言を頑張っていた。人を責めるような発言は一つもなかった。

作戦を踏まえて、対決を行った。最後にみんなで一緒に数えてみると、どちらも１５個ブロックを乗せられていた。2回戦目まで負けていたアーマードグループの成長が大きく見られた。

悔しくて泣くお友達を慰める様子。思いやりのある関わりが見られた。

お互いのグループで出た意見を見て、どのくらい話し合えていたか振り返りお友だちの意見を褒める言葉が見られた。



エピソード

【活動内容】
チーム戦でゲームをした。
一列に座り、ブロックを後ろに座っている仲間に渡し、最後の人が後ろの椅子にブロックを積み上げ、積み上げたブロックの量、高さを競った。

【他児との対話的学び】
・A くんが、２つのブロックを一緒に後ろに回そうとした際、B くんが「一つずつだよ。」と声を掛け、ルールを伝える姿が見られた。
・作戦会議では、考えを深めることができていた。みんなの意見をまとめて『大きいブロックをいくつか積み上げてから段々と小さいブロックを積み上げる』という案に至った。
・お友だちが泣いている時、慰める様子が見られた。負けたチームの悔しさを受け止め思いやることができていた。
・お互いのグループで出た意見（上手に出来る方法）を最後に全体で見比べることで、他グループの意見を褒め、こういう意見があったかと感心している様子や「凄い！」とお友だちの意見を褒める様子が見られた。

観点「(　)主体的学び　(○)対話的学び　　(　　)深い学び」　観点に○をつけてください。

［工夫等よかった点］	「もう少し改善したい点」
・椅子の配置等、環境構成が子どもたちの動きに合っており、ゲームが滞りなく進んでよかった。 ・子どもの監督をつけ、役割を設けることで意欲的に動けており、自信も得られると感じた。 ・最後のグループの作戦の見せ合いは、こんな意見もあったのかと子どもから「すごい。」という声もあがり非常に良かったと感じた。	・意見を発表する時に、手を挙げて発表ができる子と自信がなく難しい子がいた。振り返りのみんなの前で感想を言う場面で、前に出て発表するなど自信をつける経験が今後も必要と感じた。 ・落ちたブロックをグループ別に回収してはどうか。グループで落とした量が明確に分かり、次は慎重に積み上げようという意欲に繋がるのではないか。